

東原庫舎東部校に「佐賀税務署長感謝状」

11/17[Wed]

令和3年度の租税教室推進校に選ばれた東原庫舎東部校に岩松久人佐賀税務署長から感謝状が贈られました。同校では、平成22年度から令和2年度までの11年間連続で、6年生、9年生を対象に租税教室を開催。また、多久市の租税教育推進協議会などが募集する「小学生の税に関する絵画」や「中学生の税についての作文」で、毎年多くの児童・生徒が入賞するなどの功績が評価されました。

富増晃二校長は「多久市としては10年ぶりの受賞で嬉しく思います。これからも子どもたちに税の大切さを教えていきたいです」と笑顔で話されました。



▲岩松佐賀税務署長(左)と感謝状を手にする富増校長(右)

個性豊かな かかしが大集合

11/18[Thu]~27[Sat]



▲1位に輝いた
納所保育園の
「もったいない
ばあさん」



▲住民手づくりのユーモアあふれるかかしたち

納所交流センターで「第1回納所かかし祭り」(主催:納所里づくり委員会)が開催され、住民手づくりのかかし24点が出品されました。かかしは、ロープ遊びをする子どもやグランドゴルフをしている様子など、ユニークなものばかり。田淵厚会長は「短期間でこんなにたくさんのかかしが集まり驚きました。これからも納所を元気にする企画をしていきたいです」と思いを語られました。期間中に来場者による投票が行われ、1位には納所保育園の「もったいないばあさん」が選ばれました。

文化・芸術活動の成果を披露

11/19[Fri]~21[Sun]

新型コロナウイルス感染拡大に配慮し「第17回多久市文化祭り」の代替公演として「新型コロナに負けないみんなの勉強会」(主催:多久市文化連盟)が中央公民館で開催されました。

芸能部門では日舞や民踊、リズムダンスなど練習の成果を披露。展示部門では「秋の美術展2021」と題して多久市美術協会の会員による絵画、工芸、書や写真などの展示や服飾手芸、華道の力作が並びました。

文化連盟の野田勝人会長は「会員のみなさんの“発表したい”という熱意を嬉しく思いました。コロナに負けず来年以降にもつなげていきたいです」と話されました。



▲息のあった踊りが披露されました



▲会員の力作が並んだ展示部門